

## 《プロジェクト名 山と生きる山村再生プロジェクト》

市町村	飯豊町	対象地域	中津川地区	分野	林業
実施主体名	合同会社やまと	代表者氏名	安部 弘	住所又は主たる事務所の所在地・連絡先	飯豊町大字下屋地187-2 (0238-87-0100)
実施主体構成	法人				

プロジェクト 目標（5年後）	産出額（増加額）	300,000千円（270,000千円）					
	独自の目標項目	現在1.2kg菌床を2.5kg菌床に切り替え、年間40万床を生産する					
各年次目標	現 状	1年目（H22）	2年目（H23）	3年目（H24）	4年目（H25）	最終年（H26）	
	産出額	30,000千円	30,000千円	126,000千円	189,000千円	252,000千円	300,000千円
	独自の 目標項目	90,000床 (1.2kg)	90,000床 (1.2kg)	180,000床 (2.5kg)	270,000床 (2.5kg)	360,000床 (2.5kg)	400,000床 (2.5kg)
プロジェクト 概要	◎実施方針	<p>中津川地区は12,000haという広大な森林資源を財産区として有している。その中の広葉樹（ナラ）を利用した森林資源活用のため昨年度、飯豊町木質バイオマス利活用施設が稼働している。そこで生産されるおが粉等を活用できる体制が整いつつあるため、現在行っている椎茸栽培を規模拡大生産する。</p> <p>現在、菌床を他県から購入し周年栽培を行っているが、豊富な地域資源を利用し植菌～培養～発生～収穫～販売の一連体制を構築し、消費者に原材料から履歴の見える商品を生産し、純飯豊中津川産のブランドを構築する。また源流の森等、地理的立地知名度のあるこの地に植菌培養施設を建設することにより、近隣の発生収穫工程生産者に菌床を提供ことも可能となり、純置賜産の椎茸生産に寄与することを目的とする</p>					
	○産出額の増大	現在年間約90,000床（周年栽培）規模であるが、年間400,000床（生産量300t）を目指す					
	○雇用の創出	林業は男性の仕事と思われがちだが、二次林業（きのこ栽培等）の生産工程を構築することにより女性の雇用が必要となり、地域の新たな雇用形態の創出となる。また、地域だけでの雇用確保には限界があり、他の地域からの労働力確保が必要となり、地域を越えた雇用の創出が期待され、過疎化が進むこの地域に新たな労働交流人口が生まれる（新規30名（パート含む））延べ計10,950人日。					
	○創意工夫	地域内にある木質、雪氷バイオマス施設の資源を最大限利用し、暖房はペレット、チップを利用し、冷房は雪室施設の雪を利用することにより、原材料はもとよりエネルギーの地産地消を目指す。このことにより、同様の栽培施設より固定的なCO2排出量は抑制された施設となる。新規の植菌培養施設整備は高額のため、極力リサイクル機器を使用する					

	○実現性	当初から菌床栽培会社に社員を派遣し栽培技術研修を受け、現在自社で生産から販売までを稼働させている。商品についても「やまと生しいたけ」として県内市場、直販の実績があり、市場・スーパー等から商品の更なる出荷拡大を望まれている。植菌培養についても大手種菌メーカーの協力を受ける予定である。
	○地域への波及効果	当地は、なめこ缶詰の発祥の地であり、山を利活用し生活する形態が確立されていた。現在その生産は微量なものとなり自ずと山から目が離れてきている。山を利用し山と暮らした山村の形態を取り戻すべく、現代のテクノロジーを利用し昔からあった産業を再構築することにより、持続可能な山村再生を目指す
	○その他	弊社は木材の伐採搬出の業務、木質ペレットを利用する機器の販売、環境啓発活動も行っており、森林資源を活用したトータルな業務を目指している。 菌床を購入しての事業形態の場合、菌床費のウエイトが大きく、生産規模が大きくなると自社で菌床を生産することが必須となってくる。

事業計画		実施年度（平成22年度）	実施年度（平成23年度）
	事業内容	椎茸の植菌培養施設	椎茸の培養発生施設